

会長就任にあたって

石原重利*



昭和 18 年 9 月 東京帝国大学工学部卒業
 同 18 年 10 月 日本製鉄(株)入社
 同 40 年 5 月 八幡製鉄(株)八幡製造所技術部長
 同 41 年 10 月 同 戸畑製造所技術部長
 同 43 年 5 月 同 技術開発部長
 同 45 年 4 月 新日本製鉄(株)生産管理部長
 同 48 年 5 月 同 取締役生産管理部長
 同 54 年 6 月 同 常務取締役
 同 56 年 6 月 同 専務取締役技術本部長
 同 58 年 6 月 同 取締役副社長

現在に至っている。

本会俵論文賞，香村賞，通商産業大臣表彰（工業標準化事業の功績による）

このたび，私は第 69 回通常総会のおきまして新しく会長に選任されました。これは私にとりましてまことに光栄の至りではありますが，同時に本会 70 年の輝かしい伝統を思いその将来の展望を考えると，その責務の重さを痛感せざるを得ません。浅学非才ではありますが，誠心事にあたり，会員諸兄とともに本会の発展に寄与したいと念じている次第であります。

本会は，鉄鋼に関する学術と技術の研究を通じ，我が国鉄鋼業の振興に寄与する責務を課せられております。幸いにして会員各位のご尽力により，これまでの本会の実績は十分その責を果たして来ていると言えましょう。

すなわち，会誌「鉄と鋼」は，Trans. ISIJ と共に，会員諸兄の研究・技術活動に大きな支えの役を立派に果たしております。また共同研究会・基礎共同研究会等の活動，各種記念講座の開催も，鉄鋼技術者の総力を結集する形をとりながらあるいは産学協同の実を挙げつつ，技術の究明・改善に大きく貢献しております。更にまた，二国間シンポジウムの開催など国際交流の面においても着実な成果をみており，国際化社会における日本の学術・技術の貢献は高い評価を得つつあると考えております。

一方，標準化事業，情報活動，ISO 事業などその協会的活動も業界全体の質的向上に資すると共に国際的にも日本の立場を大きく押し上げる原動力となつております。

ご高承のごとく，世界の鉄鋼業はまさに苦難のときを迎えております。日本鉄鋼業も例外ではありません。これは，石油危機に誘発されたその後の経済の停滞を主因とし，政治・労働問題，また価値観の変化など幾多の要因が折り重なつていと考えられますが，このことは即鉄鋼業の斜陽化を意味するものではありません。産業全体の中での素材産業のもつべき役割から言つても，鉄鋼業の斜陽化は許されて良いことではないと考えます。我々は揮身の努力を傾注して鉄鋼業に安泰と繁栄の道を求めるべきであります。

* 新日本製鉄(株)取締役副社長

日本鉄鋼業としては、先端的・先導的技術を更に我々の技術に同化させながら、研究・開発を積極的に進め以つて競争力のいつそうの確保につとめることが至上の課題であると考えます。そしてこれらの技術的展開がトランスファーという形で世界の鉄鋼業の発展に寄与してゆくことを願うべきでありましょう。これはいろいろの面における日本の、あるいは日本鉄鋼業の立場を大きく前進させることにもなるうかと考える次第です。

いずれにしても日本鉄鋼業のおかれている現下の環境には誠にきびしいものがあります。私は会員各位のご支援を期待してこの環境を直視しそれにこたえる諸活動を更に効率的に実行すると共に、国内外の関連学協会との交流を深めながら、本会が我が国鉄鋼業の真の発展に寄与できるよう願つて止みません。

会員各位もすでにご承知のように本会はかなり広範な活動を行つております。ご支援をいただいている役員、委員の方々及び事務局の労苦には並々ならぬものがあるうかと感謝申し上げる次第ですが、一方多岐にわたる運営機構の拡充強化には、たゆまぬ前進とともに、折にふれて反省と見直しが必要であります。それは本会が会員全員のためのものであり、全員の協調によつて本会の真の責務が結実すると考えられるからであります。これは松下前会長も指摘された所ではありますが、一つの組織体として総合的効率化もまた会員のためにゆるがせにはできないことであると考えます。

以上この機会に私の所見の一端を申しのべましたが、再度会員諸兄のご支援を御願い申し上げる次第です。